

科目名	古典探究(文系)	単位数	3 単位	実施予定授業数	105 時間
-----	----------	-----	------	---------	--------

☆学習の到達目標

学習の 到達目標	【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材 等	【教科書】「古典探究」(数研出版) 【副教材】「重要古文単語 315」(桐原書店) 「体系古典文法」(数研出版) 「精選漢文」(尚文出版) 「進研 WINSTEP 古典 2」(ランズ)

☆学習計画および評価方法

学 期	学習内容	月	学 習 の ね ら い (評価規準)	時数
第 1 学 期	十訓抄 大江山 「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。	4	【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。[A(1)ウ] 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	4
	沙石抄 兼盛と忠見 『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 - 忠見のあり方をどのように評価するか、話し合う。		【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。[A(1)カ] 【主体的に学習に取り組む態度】忠見の歌にける情熱を自ら進んで評価し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	4
	韓非子 買履忘度 - 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。 - 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	5	【知識・技能】否定・疑問・選択の句法を理解している。 【思考力・判断力・表現力】鄭人のどのような態度が批判されているのかを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】「買履忘度」の故事が下敷きとしている『韓非子』の実利的な思想をふまえ、教材中の人物の行動について考えを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加しようとしている。	4
	説苑 江南橋為江北枳 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。		【知識・技能】疑問・願望・使役の句法を理解している。 【思考力・判断力・表現力】晏子がどのような論理で荊王たちの計略に対抗したのかをとらえている。	4

	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 伊瀬物語 初冠 ・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくいちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちのくの……」の歌の類似点・相違点を考える。 大和物語 をばすて山 ・「男」が「をば」を捨ててに至った経過を整理する。 ・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。 史記 鴻門之会 ・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	6 【主体的に学習に取り組む態度】「江南橋為江北枳」の故事が下敷きとしている春秋時代の時代背景をふまえ、教材中の人物の行動について考えを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】男の心情変化について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。	4 4 8	
	【知識・技能】定期テスト・小テストにより評価する。 【思考・判断・表現】定期テスト・課題およびレポートの記述内容から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】課題及びレポートの記述内容・生徒自身の自己評価・相互評価により評価する。			
	【1 学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各観点を 40%：40%：20%の割合で総括して、10 段階評定とする。			
学期	学習内容	月	学 習 の ね ら い (評価規準)	時間
第 2 学期	枕草子 御前にて人々ども ・「姨捨山の月は、いかなる人の見けるにか。」という表現で伝えていることは何か、清少納言の発言との関わりで説明する。 ・「わろかめれば、寿命経も、え書くまじげにこそ」とは何を清少納言に伝えようとしているのか、説明する。 ・「かけまくも……」の歌について、掛詞を指摘して、歌を訳す。	7	【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕	6 6
	枕草子 大納言参り給ひて			

・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういうことか、説明する。 論語 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 孟子 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 韓非子 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 更級日記 東路の道の果て 物語 ・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・「いとはかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。 中国の詩「絶句」「律詩」 ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わう。 ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。 源氏物語 光源氏誕生	【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】文章に出てくる句法を理解し、正しく現代語訳している。 【思考力・判断力・表現力】語句や表現に注意して文脈をとらえ、孔子の思想の特徴を読み取っている。 【主体的に学習に取り組む態度】文章中に見られる儒家思想と道家・法家思想の対比をふまえて、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】文章中の対句表現を理解している。 【思考力・判断力・表現力】語句や表現に注意して文脈をとらえ、孟子の思想の特徴を読み取っている。 【主体的に学習に取り組む態度】孟子の主要な思想のうち、文章で取り上げられている性善説・四端説の内容をまとめ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】語句や表現に注意して文脈をとらえ、韓非子の思想の特徴を読み取っている。 【知識・技能】文章に出てくる句法を理解し、正しく現代語訳している。 【主体的に学習に取り組む態度】儒家と法家の思想を比較し、それぞれ社会のあり方についてどのような点を重視しているかをまとめ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。[A(1)キ] 【主体的に学習に取り組む態度】『源氏物語』の「夕顔」や「浮舟」について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。 【知識・技能】限定・疑問・使役の句法を理解している。 【思考力・判断力・表現力】漢詩の表現方法や思想が、我が国の文学に影響を与えていることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】漢詩の構成上・音声上の規則を理解し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ]	3 3 3 3 8 8 6 6
--	---	---

	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。 源氏物語 小柴垣のもと ・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。	11	【思考・判断・表現】「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。 【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	8
	【知識・技能】定期テスト・小テストにより評価する。			
	【思考・判断・表現】定期テスト・課題およびレポートの記述内容から評価する。			
	【主体的に学習に取り組む態度】課題及びレポートの記述内容・生徒自身の自己評価・相互評価により評価する。			
	【2 学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各観点を 40%：40%：20%の割合で総括して、10 段階評定とする。			
学期	学習内容	月	学 習 の ね ら い (評価規準)	時間
第 3 学期	大鏡 花山天皇の出家 ・「さり」と「さりとて」「さりととも」「さること」の「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。	12	【知識・技能】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。	6
	大鏡 道長の剛胆 ・「大内裏部分略図」を参考にして、登場人物の行き先やたどった経路を確認する。 ・道長の言動に対する評価の言葉を取り上げ、誰のどのような評価であったのかを整理する。 ・道隆・道兼・道長の人物像をまとめ、比較する。”	1		6
	文章「漁父辞」 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	2		6
	平家物語 忠度の都落ち ・忠度が俊成のもとを訪れた際の、俊成とその家人との反応の違いについて説明する。	3		6

・「情けもすぐれて深う、あはれもことに思ひ知られて」について、俊成は忠度のどういうところについて、このように述べているのか説明する。 ・「前途程遠し、思ひを雁山の夕べの雲に馳す」という朗詠を行った時の忠度の心情を想像し、話し合う。	【思考・判断・表現】「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)オ] 【主体的に学習に取り組む態度】忠度の心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
【知識・技能】 定期テスト・小テストにより評価する。	
【思考・判断・表現】 定期テスト・課題およびレポートの記述内容から評価する。	
【主体的に学習に取り組む態度】課題及びレポートの記述内容・生徒自身の自己評価・相互評価により評価する。	
【1 学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各観点を 40%：40%：20%の割合で総括して、10 段階評定とする。	
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ総括し、年間の 5 段階評定とする。	